



「弁当はまだかあ？ 女の人たちは？ あれ？」

第31号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www11.ocn.ne.jp/~hakukou>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 25 年 6 月 30 日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎ 0439-67-3711
豊岡光生園	〒299-1742	千葉県富津市豊岡 3535-1	☎ 0439-68-1711
相談支援センター天羽			☎ 0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎ 0470-36-3211
鴨川ひかり学園	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎ 04-7099-3311
ひなたホームズ			
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎ 0439-70-6551

平成 24 年度社会福祉法人 薄光会 決算報告によせて

平成 25 年度も早や 2 ヶ月が過ぎ、いよいよ梅雨を迎える時期です。1 年のうちに健康を害する時は 6 月だそうで、皆様と共にもう一度健康について考えたり、日ごろの生活の見直しを図って見たいものです。

さて、社会福祉法人 薄光会も法人設立と豊岡光生園開設以来 30 数年が経過し、その間、三芳光陽園、鴨川ひかり学園、湊ひかり学園を立ち上げ、いわゆる自立支援法への移行にともない、ケアホーム C O C O と、現在、法人本部を置く太陽のしずくを開設いたしました。その後、相談支援事業所 天羽を加え、職員の皆様と法人経営関係者と一致団結して法人の経営をまいりました。おかげさまで各施設・事業所共、順調な運営がなされており、今後も引き続き各施設・事業所の機能強化を目途に、さらなる当法人の発展を期してまいる所存であります。

ご承知のとおり、法人経営の最初の施設であり、中心であります豊岡光生園は老朽化が甚だしく、鋭意、改築・改造計画を進めて参りました。進めるにあたってはプロジェクトチームを結成し、様々な議論を経て、蓄えてきた資金と多くの方々から寄せられたご寄付により、計画の実現、着工の運びになった次第です。ここに至る過程で、12 月に実施した入札では落札業者がなく、再度の入札を実施するなど、事務的には若干の遅れはありましたが、着工後は工事工程的には順調に進捗しております。工程を見ると第 1 期工事、第 2 期工事を経て来年 2 月に完成する予定となっております。当該建設物は現在の二ーズにあった構造で完成されるものと確信しておりますので、どうか利用者の皆様、また保護者の皆様、ご期待下さい。

当法人を暖かく見守り、支えて下さっている多くの皆様方には、心より御礼申し上げます。今後ともますますのご支援とご鞭撻のほどをお願い申し上げる次第でございます。

平成 24 年度社会福祉法人 薄光会の決算報告をいたします。



社会福祉法人 薄光会

理事長 山崎 照海

光
陽

『つ…な…が…り…』

六月で三芳光陽園は、二十三回目の開園記念日を迎えます。開園記念日には、富津市湊の『さとみ寿司』さんによる握りの実演会が行われます。

平成二十年の開園記念から始まった企画ですが、これで四回連続となります。

開園記念が近づいてくると、どこからともなく

「今年は寿司、いつくんだ?」

「はやくお寿司が食べたいね!」

といった話が聞こえてきます。

中には

「園長が、俺だけに内緒で教えてくれたんだけど…」

などと事実無根の話まで出る始末。さとみ寿司さんの来園は、夏祭りや敬老会と並び、お年寄りたちの楽しみの一つとして根づいているのです。



お年寄りたち、単にお寿司が食べたいだけではありません。お寿司を握りながら交わされる旦那さんとの会話もまた楽しみのひとつなのです。

それも商売の内と言ってしまえばそれまでですが、カウンター越しに交わされるお年寄りと旦那さんのユーモアを交えた軽妙な会話は、脇で聞いていると、なんとも耳に心地良く響きます。旧知の知り合いのような関係が、あっと

いう間に出来上がり、こちらが聞いたこともないような昔の話をお年寄りから聞き出してしまいます。自分たちも見習わなければならないと感心しています。

今年は、どんな会話が聞かれるのか、今から楽しみます。

年に一度のつながりですが、お年寄りの楽しみなけていけたらと思っています。

『いくつになっても…』



いくつになっても、たとえ爺さんになっても、男は男でありたいと思う。

食事を食べさせてもらうなら、はげのおっさんに食べさせてもらうより、若いお姉さんに食べさせてもらったほうがいいに決まっている。

でも…、あまり態度が露骨すぎないだろうか?

三芳光陽園の男性入所者たちよ。

いまだき食事介助に入る施設長なんて珍しいんだぞ!

男に声かけられても、眠気は覚めないのは分かっているわい。

でも…、一生懸命脇で声をかけている努力を踏みにじるように、遠くから聞こえた若い…若くない場合も含めて、女性職員の声で、いきなり目を覚まし、満面の笑みを浮かべ、急に食事が進みはじめるってのはどうなんだろうか?

いじけ虫になってしまいそうだ。

いくつになっても、男は男と思いながら…

でも…そういう爺に私はなりたい



『ひょっとして…』

芸術家…かも?』

(その二)

日々のふれあいの中で、

「ひょっとして、この方、芸術家なのかも?」と、感じられる瞬間があります。皆様は、どう思われますか。

古新聞や広告が、和江さんにかかると、不思議なオブジェに変わってしまいます。何に見えるかは、その人の感性に任せますが、岡本太郎的な才能が見え隠れしているような気がしてなりません。

ただ一点、難点を言えば、切っているものと、そうでないものの区別がつきにくくなっているところでしょうか。

和江さんは、今日も創作活動に励んでいます。



ひかり通信

「人プラン 発酵会蔵が和光磨く縁」



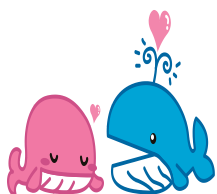
なんじゃそりゃ? というタイトルですが、要は未
来計画です。

私が入職した頃の作業は農耕・園芸・手工芸の三チ
ームでしたが、今年度は十二チーム。

これは「人口増」ではなく「細分化」です。少人数
チームで様々な分野を掘り下げながら地域から学び、
地域に発信・提案し、地域の中でこそ役割を持ち、地
域に評価されることを目指していきます。

それには、まず人ありき。街の中での出会いをふく
らませてみたことから、学園ならではの、世間的に未注
目素材に価値を生むモノ作りプロジェクトが複数進
行中です。具体的には「剪定枝」と「珈琲かす」と使用
後フィルター」。詳細は次号お伝えしますが、今回は
企みの発端となった出会いのエピソードを紹介しま
す。

和田町、花の広場公園にあるカフェ「花夢花夢」。
初訪問は昨年九月。四く五人入ったら満席になるよう
な、常連さんが次々と顔を出す、まるで深夜食堂のよ
うなカフェです。



その小さな空間で、目の前でオーナーがドリッ
してくれた「ヒー」を手にとって腰周りでくるく
る回す石井健さん。初めての物、特に好物の食事を
器ごと回すのが彼の流儀。その後、口にして頬をた
たくいわゆるおいしいのポーズのが最高ランク評
価の表現。同行者はカフェの飼い犬と外へ遊びに出
ていて、空間には私を含め三人。初対面のオーナー
はびっくりし、
「どうしたの?」

と心配しつつも見守っていました。健さんと向き合
おうとしているのがわかり、私は口を挟むのをやめ
ました。頬をたたく健さんの表情を見届けたオーナ
ーは「そうか(おいしいか)よかったな。」と穏やかな
笑顔を健さんに向けました。

たった二つのセリフしかないドラマの唯一の観客
となった私は、たちまちオーナーのファンとなりま
した。

三カ月後に一人で再訪した際に、オーナーは健さ
んの事を覚えていたので、彼の流儀に対する私の解
釈を話すと、

「そうか、やっぱりどんな行動にも意味があるんだ
な。」

としびれるセリフ! ここは「居場所」だと思いま
した。一対一で、目の前でドリップしてもらった珈
琲を、先程のセリフと混ぜて味わいながら、ふと思
いついたことを投げかけてみる。珈琲かすは捨てて
いるという。

「ならフィルターごと回収させて下さい」
「それは助かる!」

この時点で、すでに私の頭の中では(回収役、分
別役、加工役、デザイン手法、それを教えてもら
えそうな地域の方...)との構想が浮かんでいまし
た。それをどう具体化していったかは次号に続き
ます。
(住本)



「出会いの春 ようこそ! 神作聡支さん」

春といえば出会いの季節。

四月から新しく学園に仲間入りした

神作聡支さん。



笑顔がとても素敵です。

楽しい思い出を

たくさん

作っていきましょう。



COCO de ここ

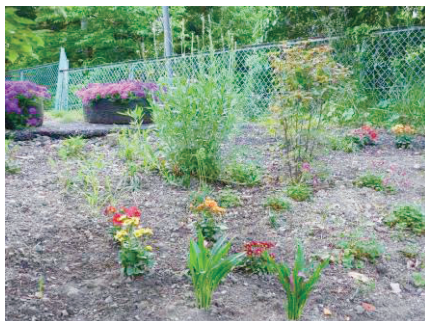


春過ぎてなつきにけらし...



「春」といえば木が伸び、花々が咲き乱れる季節ですね！ 支援員も各ホームの草取りや庭の手入れと忙しくなる季節となり、居住者も水やりや草取りの協力をしてくれます。

去年プランターに挿木したあじさいが、いつの間にか並べられた石に変わっていたり、クレマチスが知らぬ間に抜かれていたり、畑の脇の藤の花にやって来る熊ん蜂をじーっと眺める居住者を見て、藤の木を切ろうと言いつつ支援員もいます。（本当は熊ん蜂は、とてもおとなしい蜂だそうです。）毎年挨拶に来る青ダイショウ君は、まだ顔を出しません。

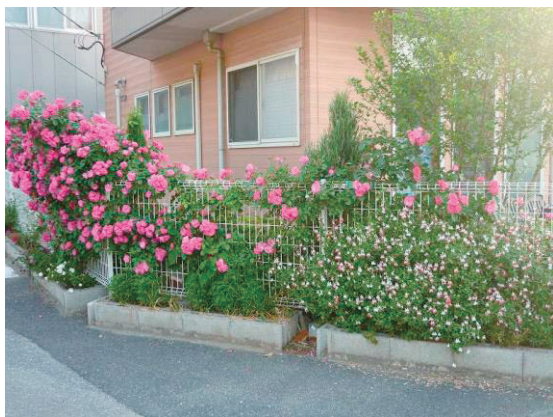


今年は、特に花々の紫が濃く、花壇の花や山々の藤の花が目に見え、鮮やかに入ってきます。そのせいか鼻血を出す方や気分が向陽いや高揚しすぎる方など、どう声を掛けたら良いものか支援

員の悩みの種になっています…。

花が咲くたびに、道行く人たちに声を掛けられます。利用者もとてもうれしくなるようです。各ホームの庭が少しでも和んでくれるような場所になれば良いと思います。これからどのように変わっていくか楽しみです。

（小滝）



ダイエットの「怪」



以前より注意されていた「メタボ組」の殿方諸氏、食事量、減塩、エクササイズ(?) と気を使っていたせいか、多少のリバウンドはあるものの、健康診断の数値の赤ランプを消すことに成功したとの情報を小耳にはさんだ。

一方、ご婦人方、同じく努力するものの、腹囲の数値に一喜一憂し、恐る恐る体重計に乗る日々。「やせたかも」なんて言われながら、歳のせい(いや失礼)一向に体重の目盛りは変わらない。何か月も変わらない。

「脂肪が筋肉に変わったかもね」なんて、珍説も出てくる始末。あまりにも変わらないことにはいぶかった職員のS女史、自分の体重を計ったらしい。はじめは笑みを浮かべ、次に首をかしげ、最後に天を仰いだそうだ。

そうなのだ。なんと、体重計が壊れていたのだ。いや、たぶん壊れていると結論付けたのだ。

「おお、神よ」賢明な読者諸氏は、この真相にお気づきだろうか。



ほのか 芸能リポーターH

じっちゃんの名に懸けてうーむ...



園だより

「継続していること」

今、継続していることは、椎名さんの足腰を鍛えて歩行力を維持し、骨粗鬆症を予防することです。私もその「ミッション」に挑戦しましたが、椎名さんの眠気が強かったり、歩行を嫌がったりすると、職員はつい車椅子に頼っていました。歩行するにも足腰が弱く、体勢が崩れて倒れそうになるので、よほど注意しないと椎名さんも職員も一緒に怪我をしそうで、ますます車椅子となってしまっていました。ついでにそうになったり反省しきりのミッションですが、先日、職員を驚かせる出来事がありました。なんと、二階に居室のある椎名さんが一人で階段を下りてきていたのです。職員は思わず「ああ！」と声を出してしまいましたが、当の椎名さんはおかまなし。危うい足取りでもなく、膝が震える様子もなく、目力も強く一歩一歩階段を踏みしめ、職員の手助けは要りませんでした。最近の居室変更で歩く機会が増えたからなのでしょうか。はたまたミッションの成果なのでしょうか。



実は椎名さん、昔から階段の一番下にある電気スイッチを触って、蛍光灯が点いたり消えたりするのを見るのが好きでした。「歩こう、階段下へ下りてスイッチを触ろう」という椎名さん自身の強い意思に違いありません。「何かしたいという意思」が身体機能もアップさせていると改めて気づかされました。支援の意味を捉え直して、再び椎名さんに関わっていいことと思いました。



小野寺 裕

「春」

春…光生園の春はやはり散歩でしょうか…。

冬の間は豊岡に近づくに連れて風景が変わります。雪の降ったときには、湊界隈では陽がさすと雪はどんどん溶けて消えるのに、豊岡に近づくに連れて道路の端や草木の上に残っています。同じ富津でも寒さが厳しいです。ですから春になると桜が咲くより先に利用者さん達は、お陽さまに届けとばかりに体を伸ばして日向ぼっこをしたり、「そろそろ出かけようよ」ともうむずむずしながら外に出たそつです。

散歩の定番は光生園そばのトンネル迄のコースと、その先の戸面原ダム一周コースがあります。トンネルまでの短いコースの間でも、美味しい空気と青い空、道端のタンポポも「春だよー」と呼んでくれている様です。ダム一周コースは距離が

遠く、主に足腰に自信のある利用者さんが行きます。毎年行くので、途中の休憩所も心得ていて、先に着くと「あー疲れた」と言いたげにのんびり座っています。先日行った時には藤の花が見事でした。本当に素晴らしい環境の中に暮らしていると思います。



更に長距離コースで「プリン山コース」が再開されました。光生園そばの市民の森にその形がまるでプリンのように見えるためそう呼ばれているのです。山道は舗装されていますが、急勾配な道路が続ぎ、何年か前に平気で登っていた利用者さんも少しお疲れの様でしたが、下りる時には早く帰りたい一心(?)でウサギが山を駆け降りるようでした。

木漏れ日を浴び、道端の露を摘んだり石ころをけったり、疲れて職員と手を繋いだり思い思いの散歩を楽しんでいます。

学園新聞



「田植え」

毎年、ゴールデンウィークの連休が明けると、私たち湊ひかり学園では恒例の田植えが始まります。今年も一週間ほどかけて、なるべく多くの利用者のみなさんに参加してもらいました。

この原稿を書いているのは六月上旬、現在では植えた稲が青々と育ち、晴れた日に田んぼをながめていると、新緑の山々の色と同調して実にすがすがしい気分になさせてくれます。

自分たちで植えた稲ですから、なおさらですよー！

特に用もないのにみんなで田んぼに出かけ、景色をながめて帰ってくるなんて事もしばしば…

今でこそ、利用者のみなさんや我々職員も穏やかな気持ちで田んぼをながめている事が出来ますが、毎年の事とはいえ、今年も春先の準備の段階から一筋縄ではいかず、色々なトラブルがありました。特に代掻きの時に耕運機が深みにはまってしまい、利用者のみなさんの力を貸りて、ロープで引っ張って見たものの、深みにはまった耕運機はびくともせず、(ういっ！ういっ！か…)と皆で頭を抱えてしまいましたね。



何はともあれ、無事に田植えを終える事が出来てめでたい、めでたい！

今日も「水が心配だから…」と田植え部長のみなさんに言われて、二人で田んぼを見に来ました。

満足げに田んぼを眺めるまじこさんの横で、

「稲刈りの時期はまだ忙しくなるんだよね…」

と先の心配をしている田んぼ担当職員の間で、お互いに違う事を考えながら、その後もしばらく田んぼの風景を眺めていました。

(中 後)

「春になり(声を聞かせて)」

長い冬もようやく終わり、暖かな日差しを感じる頃となりました。

私が初めてまりこさんの声を聞いてから五か月が経ちました。

現在のまりこさんはういっ！

「さいた〜、さいた〜」

歌を歌うようになりました。

歌を歌い始めたのは最近の事で、まだ、暖かさと寒さが同居した、ちよつと季節の移ろいを感じるようになった頃の事です。

それからおおよそ一か月の間に、まりこさんのいろいろな姿が見られてきています。

ある日には、

タンタンターンッ、タンタンターンッ



と、歌の絵本を耳に当て、両足でリズムを刻んで音楽を楽しみ、

またある時は、

突然すっくと立ち上がり、音楽を聴きながら、ホップステップと踊るように室内を歩いては微笑んでいます。

以前、まりこさんは無表情のまま、おもちゃから出る歌声を日がな聞いていましたが、その時からすると、すごい変化だと思いませんか？これからも、いろいろな姿を私たちに見せてくださいね。

歌が大好き笑顔の素敵なまりこさん。

(大 木)

「新職員紹介」

はじめまして、一月より就労しています、石川景子です。

今までの経験を生かして

皆様の力になれたらと思います。

よろしく願います。



この春より就労致しました、芹沢希です。

福祉施設でお仕事させて頂くのは初めてですが、子育て経験を支援に生かしていければと思います。

よろしく願致します。



太陽のしずく

花よりだんご？

三月二十六日、野鳥の森へ毎年恒例のお花見に行きました。天気も良く、桜も見ごろ

まったくのお花見日和で、さっそく花の宴です。

二十歳でもある平川直人さんにビールで乾杯といきたかったのですが、今日はノンアルコールで我慢してもらいました。光信さんもグラスにつぐと、喉が渴いていたのか一気に飲み干していました。中には、チューハイをおいしそうに飲み、酔いがまわっていい気分になった沢本さんもありました。

みんながそれぞれに盛り上がり、楽しんでいる中、一人三夫さんだけは、桜には興味ないのか、ごちそうを一通り食べると、もうそれだけで満足したのか、三夫さんの本心はわかりませんが、(俺は帰りたいんだー！)

と、職員の手を引き、駐車場の方へ行つては、説得されて、行ったり来たりを何度か繰り返していました。

(この職員ではダメだ)

と思ったのか、三夫さんは、他の

職員を見つけては、手を引き出しました。でも、なかなかわかってもらえないようでした。



花より団子という言葉が浮かびました。

帰ってから、ミーティングで、場所取りが上手くいかず、今年の場所は、「しょぼかったなあ」という感想が漏れたました。

「あつ、三夫さんもそう思ったかも！」
あつという間に過ぎてしまった時間ですが、また来年も桜を楽しみに…。+

(すっかり場所とれよ！ 三夫より)

(HIROMI)

『春』 アタックNo.1



冬の冷たかった時を過ぎて、やっと春らしい日が続いています。太陽のしずくの花壇にも、つくし・タンポポ・菜の花と顔を出します。「種まき人」のおかげもあり、球根から植えたチューリップも次々と咲き、芽が出た事に喜び、花が咲いた事に喜び、小さな幸せを見つけながら、感動するようになりました。

春といえばもう一つ、恋の季節ですよな？

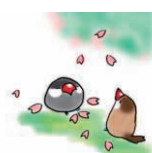
私だけですな？ ある利用者さんからの熱烈なアプローチ。毎日といっても大げさではないくらいの



求愛。どこに居ても突き刺さる視線。毎日あるボディタッチ。隙さえあれば、唇さえ奪われることもしばしば…。もう四十歳も過ぎている私ですから有難い話ですよ。

今では、帰宅されている数日間に少し寂しささえ感じる様になりました。

しかし私も三人の子持ちでして、この場をお借りしてここではつきり！ 私達の間には、この先春がくることはなさそうです。



新人さんいらっしゃい

四月より太陽のしずくで働かせていただいております、石井幸樹です。社会人一年目でわからないことばかりですが、利用者の方や職員の方々と楽しくお仕事できたらいいなと思っています。みなさんよろしくお願いします。



笑顔がステキな石井さん

編集後記

「笑う門には福来たる」 きらめきの編集も各事業所で持ち回りになり、太陽のしずくが登板しました。笑顔でやってたけど、「福」が来たかな？

凸凹コンビの二人で楽しく出来たのも、これまでに「福」ですね！ 今年度も前向きにみなさんと一緒に笑顔で過ごせたらと願う日々です。(S&J)